

令

和7年の幕開けにあたり、皆さまに新年のご挨拶を申し上げます。

さて、昨年は元日に能登半島地震が発生し、甚大な被害がありました。本市でも津波注意報が発表され、市内に混乱が生じ、その対応に追われるなど災害対応の難しさと新たな課題をあらためて知る機会となりました。そして、さらにこの課題に対応している最中の7月下旬に、秋田県南部から山形県北部を中心に大雨災害が発生し、本市も仁賀保地域を中心に大きな被害を受けました。これまでにかは市は災害の少ないまちとして多くの人が安心して暮らしてきました。しかしながら、毎年のように発生する大雨災害は、私たちに、いつでも、どこでも、だれでもが、災害の当事者になりうることをまざまざと知らしめました。あらためて日頃の備えの大切さを再認識しているところでもあります。被災された皆さまには心よりお見舞いを申し上げます。

さて、昨年6月に「ニカホアウトドアベース・モンベルにかほ店」がオープンしました。鳥海山と日本海に由来する自然資源に恵まれた本市に新たなアウトドアアクティビティ拠点ができました。にかほ市が新たな旅の目的地として選ばれていくようさらなる磨き上げをしていかなければならないと考えております。今後、アウトドアを軸とした賑わい創出のための取り組みを

新

年あけましておめでとう
ございます。令和7年の
新春を迎え、謹んでお喜
びを申し上げます。

昨年は、元日の能登半島地震や7月に本市を襲った豪雨災害など、全国的に多くの自然災害が発生した1年となりました。被災された皆さまに心よりお見舞いを申し上げますとともに、防災対策の重要性をあらためて強く認識したところでもあります。

私たち市議会は、二元代表制のもとで、市長ならびに他の執行機関との立場や機能の違いを踏まえ、常に緊張関係を保ちながら、皆さまが安心して暮らせるにかほ市を目指し、防災、雇用、福祉・医療、教育など重要課題の解決に全力を尽くしております。そのため、年4回の定例会のほか、臨時会や常任委員会等各種会議において真剣な議論を重ねております。市民の皆さまに議会の活動をお伝えするため、本会議の様子はインターネットからのライブ配信や議会ホームページから録画配信で視聴することができるようになっており、定例会の都度議員自らが記事を書く『にかほ議会だより』も発行しております。議員の仕事は市民の皆さまの意見を聴くことが第一でありますので、広聴活動により一層力を入れて参りたいと考えております。

また、議会が開催されていないときは、行政視察などにより他市町村が実施する優れた施策を勉強したり、「議



にかほ市長
市川 雄次

行って参ります。

同じく6月に公開された映画「ルックバック」は、本市出身で仁賀保高校情報メディア科OBである藤本タツキ先生の原作が劇場アニメ化されたものです。世界中に配信されているこの作品の中には、にかほ市の風景が多数描かれていきます。そして、その景色の美しさに多くの人が魅了され、国内外から多くの観光客が「ルックバック」の世界観を求めて本市を訪れはじめています。市としても、藤本先生の豊かな才能に敬意を表しつつ、この機会を使って新たなシティプロモーションを展開させ、本市の知名度を向上させて行きたいと考えています。あわせて、にかほ市が藤本先生のような新たな才能が育ち、羽ばたけるような場所となるよう、継続して子育て支援や若者福祉の充実に取り組んで参ります。引き続き市民の皆さま方のお力添えをお願い申し上げます。

あらためて、令和7年が皆さま一人ひとりととって素晴らしい一年になりますことを心からお祈り申し上げます。

員と語ろう」と題した市民の皆さまとの意見交換会を開催したりするなど、それぞれ議員力・議会力を高めようと日々努力しています。

人口減少が叫ばれ久しいですが、令和5年1年間に生まれた子どもの数は全国で前年比5・1%減少し75万8、631人となっています。本市においても減少傾向が続いており、今後も中長期的な視点で総合的な施策を切れ目なく推進する必要があります。このような計画の実行には行政や議会だけでなく、市民一人ひとりがそれぞれ役割を担い全体で推進すべきだと考えます。にかほ市議会は、これからも市民の皆さまが安心・安全に暮らせるまちづくりのため、市政に対するチェックと政策立案の強化を図り、皆さまの付託に応えられるよう努めて参りますのでご支援とご協力をお願いいたします。

本年10月1日を持ってにかほ市は市制施行20周年の節目を迎えます。令和7年が皆さまにとりまして、幸せで実り多く、飛躍の年となりますことを心よりお祈り申し上げます。



にかほ市議会議長
宮崎 信一

謹賀新年